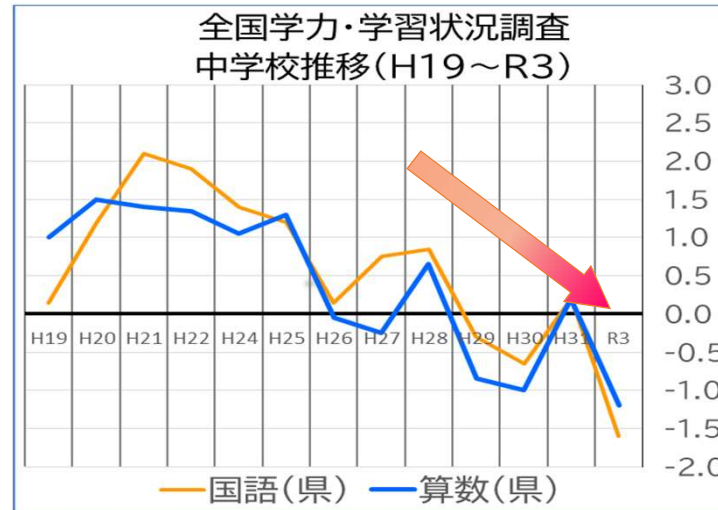
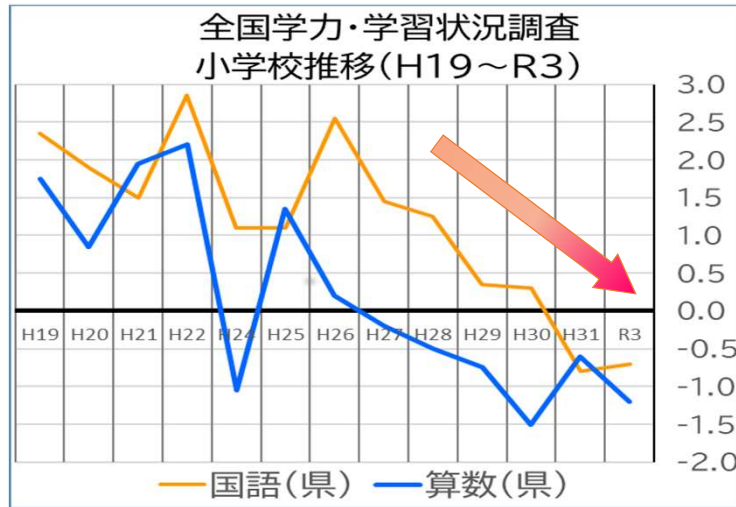


# 本県の学力の現状

資料 2

## ★全国学力・学習状況調査・教科調査の平均正答率の年次推移



令和3年度	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
本県(公立)	64	<b>69</b>	<b>63</b>	<b>56</b>
全国(公立)	64.7	70.2	64.6	57.2

## ★全国学力・学習状況調査・質問紙調査の概要



## ★全国学力・学習状況調査から見た鳥取県の現状

- ・「小学校算数」及び「中学校国語」「中学校数学」は全国平均を1ポイント以上下回る
- ・小学校算数に関わる調査項目の肯定的回答率が大きく上昇した
- ・小学校・中学校とも、全国平均と比較すると、経年で低下傾向にある

# 本県の学力の課題

## ★全国学力・学習状況調査の問題形式別平均正答率

	小学校国語		小学校算数	
	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
本県(公立)	71.7	57.9	73.2	63.0
全国(公立)	68.3	62.1	74.1	65.1
全国(公立)との差	3.4	-4.2	-0.9	-2.1

「思考力・判断力・表現力」

⇒予測不能で変化の激しい社会の中で、自ら課題を見つけ、既得の知識を関連付けて解決策を考えることができる力

今求められる学力

## ★全国学力・学習状況調査・学校質問紙調査の回答から

※肯定的回答の全国平均との差

鳥取県小学校 (全国との差)	-11.5	-9.8	-15.6	-8.1	-14.6
鳥取県中学校 (全国との差)	-8.1	-7.6	-19.1	-17.6	-17.9
学習指導要領 で求められて いる取組	言語活動について、学校全体で取り組んでいるか。	習得・活用及び探究の学習過程を見通した授業改善をしたか。	身につけた事を様々な課題の解決に生かす機会を設けたか。	知識を相互に関連付けたり、解決策を考えたりする学習を取り入れたか。	調べたことや考えたことを800字程度でまとめたことがあるか。

## ★見えてきた課題

- ・鳥取県の子どもは、これからの社会を生きる上で必要な「**今求められる学力**」が**十分身に付いていない**
- ・学校では、「今求められる学力」を児童生徒に付けるための**授業改善が全国より進んでいない**

⇒未来を生きる子どもたちに「今求められる学力」を付けるために、学力向上に向けた方向性を県と市町村が共有し、全県で取り組む必要がある

# とっとり学力・学習状況調査

「今求められる学力」をすべての児童生徒に身に付けさせるためには、平均点だけでは見取れない個別の学力の伸びや学習状況を把握することが必要であり、とっとり学力・学習状況調査によって把握した状況を基に一人一人の児童生徒を確実に伸ばしていく教育を進める必要がある

## ○とっとり学力・学習状況調査導入のねらい

- 児童生徒一人ひとりの「学力の伸び」と「学力を支える力(学習意欲や自制心、計画的に学習を進める力等)」の変化を経年で継続的に把握する
- 児童生徒の学力の伸び率等から、学級や学校単位での指導の成果と課題を分析し、改善につなげる  
 ☆個別の「伸び」を丁寧に見取れる調査 ☆学級・学校経営に活用できる調査

## ○とっとり学力・学習状況調査で見えるもの



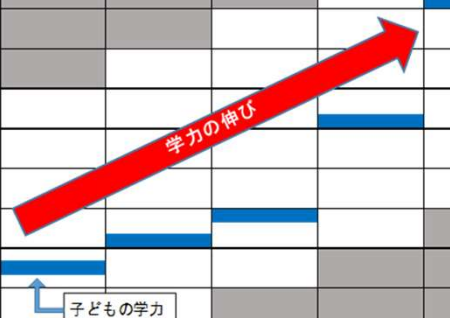
「学力」や「学力を支える力」を可視化

### とっとり学力・学習状況調査の特長

問題ごとに難易度を設定した学力調査を継続して実施することにより、子ども一人一人の学力の伸びを把握し、指導に生かすことができます。

		小4	小5	小6	中1	中2
高 ↑ 難 易 度 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

学年ごとの難易度の設定



- 個別の「学力レベル」が見える
- 個別の「学力の伸び」が見える
- 個別の「学力を支える力」の状況が見える
- 「学力の伸び」と「学力を支える力」を関連付けて見える

個別の児童生徒の5年間（小4～中2）の伸びを継続して把握し、個別最適化した学習につなげる



鳥取県独自のデータに基づく個に寄り添った指導・支援ができる

◇全部で12のレベルがあります。（各学年で測定可能なレベルは7レベル）  
 ◇1つのレベルをさらに3層（A～C）に分けています。

# 鳥取県の学力向上に向けた方向性

全県的な課題や授業改善の方向性が分かる「**全国学力・学習状況調査**」と、児童生徒一人一人の伸びを把握し個に寄り添った指導に生かせる「**とっとり学力・学習状況調査**」を**学力向上のための両輪**として、「今求められる学力」を付ける授業改善を全県で推進する。

## 1 「今求められている学力」に向けた授業改善

\* 学習指導要領に示される今後の社会の変化に必要な学力

## 2 学力を「伸び」で考え、「変化」「成長」に光をあてる

\* すべての子どもの力を発揮させ、成長させる  
\* 教師の努力に光をあてる

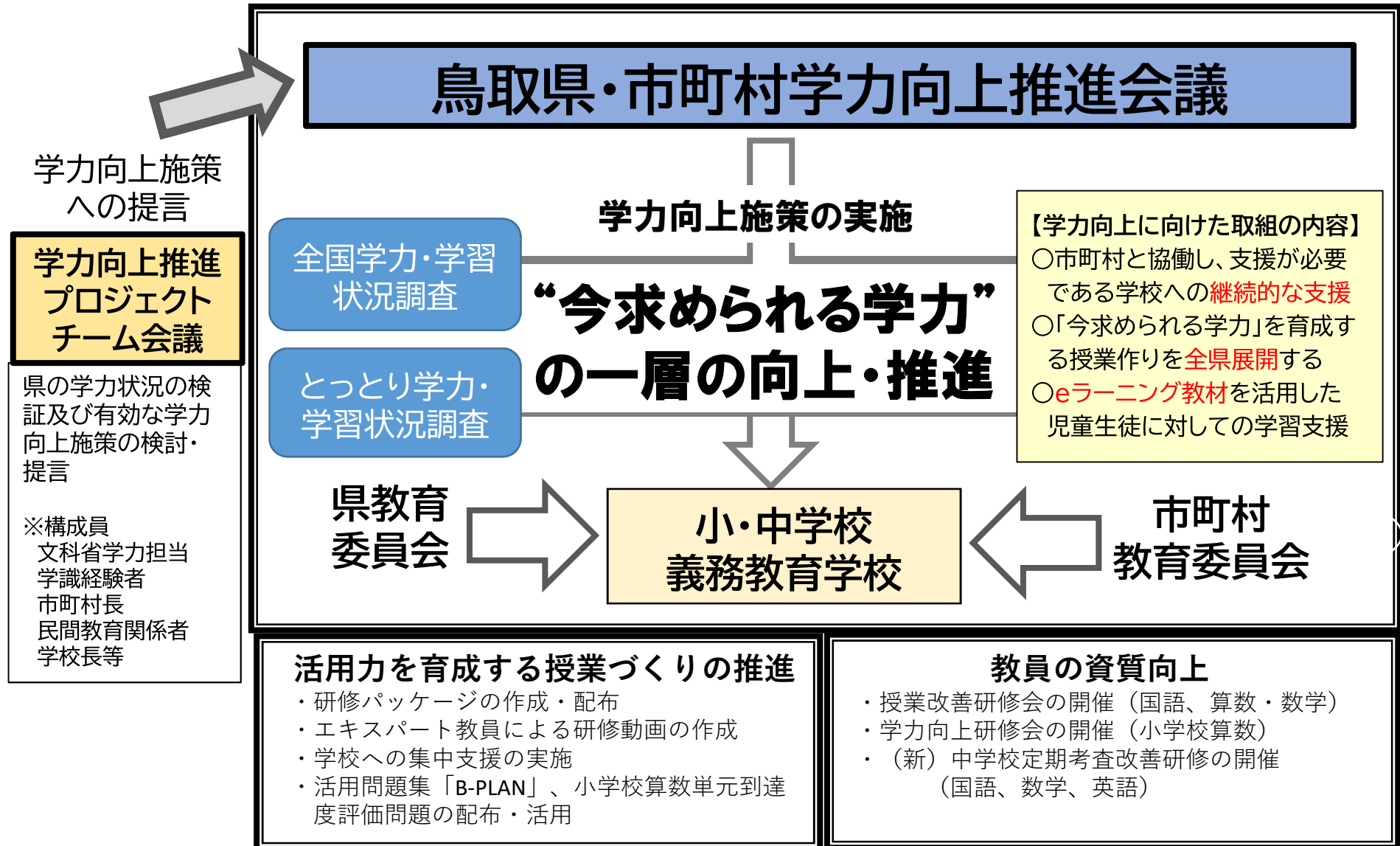
## 3 「学力」と「学力を支える力」との両輪で考える

\* 「学力の伸び」と「学力を支える力（学習意欲や自制心、計画的に学習を進める力など）」に因果関係あり  
\* 見えにくい子どもの変化をデータ基に読み取る



学力向上に関する市町村連携強化事業 「未来を拓くとっとり学力向上プロジェクト」

鳥取県における学力向上について市町村と課題を共有し、市町村と鳥取県が協働し、課題解決に向けて具体的な取組を検討・実行することで、全县一体となって学力向上を強力に推進する。





# 国に先行した県内小学校全学年への30人学級導入案

**全国初!**

市町村の協力のもと国に先行してきた少人数学級について、小学校全学年への30人学級導入により、より一層のきめ細かい指導を実施し、本県の将来を担う子どもたちのため「子育て環境日本一」の実現をめざす!

## 【課題・背景】

- 小学校2年生が3年生に進級する際、クラス規模が大きくなり、落ち着かないクラスが発生。
- 教室のスペースの問題で新型コロナ対策に制約あり。
- 更なる少人数学級への保護者からのニーズが高い。

## 【ねらい・期待される効果】

- 小学3年生(教師から集団の形で自立し、仲間だけで行動し始める時期)進級時の学級規模拡大による学級経営の不安定化の解消。
- きめ細かい指導、教育的ニーズ・理解度に応じた指導の一層の充実による学力向上の推進。
- GIGAスクール構想による一人一台端末環境の下での個別最適な学びや多様な学習環境への対応。

## 30人学級の実施

### 【新たな少人数学級の方向性(案)】

- 小1、小2については現行制度継続
- 小3～小6については200万協力金方式により30人学級を実施(拡充)
- 県の学級編制基準を超える学級編制・複式解消は500万円協力金方式により実施(現行制度継続)
- 学校において教育効果の高まる効果的な運用の方法について検討

### 【その他】

- 教育課題解決に向けた加配及び非常勤講師等の適正な配置を引き続き検討

### 【参考】鳥取県の学級編制基準

単県費      新200万円協力金      現行200万円協力金

〔令和7年度完成(予定)〕

小1	小2	小3	小4	小5	小6
30	30	30	30	30	30

※令和4年度から4年かけて、小3から小6について段階的に30人学級を実施

〔平成24年度から令和3年度まで〕

小1	小2	小3	小4	小5	小6
30	30	35	35	35	35

※国は令和3年度から5年かけて、小学校全学年を段階的に35人まで引き下げ

# 市町村からの意見

- ICTの活用について(米子市)  
今年度より生徒1人1台整備されたタブレット端末について、児童生徒の深い学びにつなげるための活用法について議論したい。
- 中学校の少人数学級の今後のあり方について(米子市)  
国の動向を踏まえて検討していくのかなどについて議論したい。
- 特別支援学級の体制整備(学習支援員の配置)について(北栄町)  
県内全ての小中学校において、必要な教職員(学習支援員)が配置できるよう、特別支援学級の体制整備について協議の場を設けてほしい。